

## 就労継続支援A型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	self-A・オンステージ鶴間	事業所番号	1413001080
住所	神奈川県大和市西鶴間3-9-19 エイビル202	管理者名	工藤 絵美
電話番号	046-204-9105	対象年度	2026年度

## 地域連携活動の概要

<p>&lt;活動内容&gt;  <b>【活動場所】</b> 株式会社日本フードエコロジーセンター  相模原市中央区田名塩田1-17-13  <b>【実施日程】</b> 月曜日～金曜日(週2日 09:00～14:00)  <b>【実施した生産活動・施設外就労の概要】</b>  食品リサイクル事業及び飼料製造事業に係る食品残渣(食品循環資源)分別仕分け作業またはこれに付随する業務  <b>【利用者数】</b> 4名(基本)</p> <p>&lt;目的&gt;  <b>【地域連携活動のねらい】</b>  地域企業と連携し、障がい者の方が社会経験を重ねて一般就労に繋げていく。職場のマナーや知識・技術を身に付け、出来る作業を増やして自信を高めていく。</p> <p><b>【連携活動のメリット】</b>  一般企業でも就労環境を配慮することで障がい者の方が就労可能であることを実業務を通じて理解できる。それを踏まえ、直接雇用の選択肢として障がい者に加え、人手不足の企業や地域を支えていく人材の確保と育成が期待できる。</p> <p><b>【対象者にとってのメリット】</b>  様々な作業を体験することで、出来る作業を増やし、自分に合った職域拡大の可能性を見いだせる。同時に一般企業での就労を通じ自らが社会に必要とされることの実感を得る。またメンバー間で創意工夫しながら作業することで協調の実践の場となる。</p> <p>&lt;成果&gt;  <b>【実施した結果・得られた成果】</b>  本業務の基本である異物混入厳禁の意識が継続した作業で確実に高まっており、加えてスタッフサポートを自主的に行うなど作業全体を視野に入れた行動ができるメンバーが出てきた。</p> <p><b>【課題点】</b>  個人の能力には差異がある。作業性を上げるには、個々の特性に配慮したどのようなやり方が良いか、また他のメンバーを参考にするなど、メンバー自身での能力の向上を促す。</p>	<p>&lt;活動の様子&gt;  <b>活動の様子</b></p>  <p><b>仕分け前食材例</b></p>  <p><b>(活動内容の追加コメント)</b>  素早く食材を仕分けるには、いかに、手際良く、効率的に実施するかを学べる機会でもある。また、簡単な作業の中でも、扱い食材が変化するとともに多岐にわたり、包装材の区分も異なる対応が求められ、それらを、自身の判断で、正確に区分けができるようになることを目指す。</p>
--	--

## 連携先の企業等の意見・感想

<p>&lt;成果&gt;  <b>【連携した結果に対する評価】</b>  弊社は食品ロスといわれるような余剰食品を加工して養豚用の液状飼料を製造するリサイクル施設であり、袋入りのパンや災害備蓄品、パッケージ品、飲料のバックや業務用の納豆など、多様な食品が搬入される。以前よりも搬入量が増加している中で、オンステージ鶴間様はこうした食品を早く、かつ正確に開封してくださっており、作業面で大変助けていただいている。上記の通り多様な食品の搬入があり、対応が難しい品物も少なくないが、適切に対応していただき弊社の業務に欠かせない存在である。</p> <p>現在は原則として週2回の作業ということもあり、作業日に要開封物がないというケースはほとんどなくなった。状況によっては臨時で開封に来ていただくことがあるほか、弊社パンフレットの封入作業等も行っていただいている。</p> <p><b>【今後の連携強化に向けた今後の課題】</b>  以前よりも多様な食品の搬入があるため、分別方法の共有や場所の確保などを意識して行う必要があると感じている。また夏は暑く冬は寒い職場であり、昨年は暑さ対策で工場の一部にミストを導入したが、引き続き作業環境を改善するためにどのような手法が可能か検討したい。</p>			
連携先企業名	株式会社日本フードエコロジーセンター	担当者名	高原 淳